

日本語の「ノカ」疑問文とそれに対応する中国語の疑問文

呉 紅 哲

1. はじめに

日本語では「～カ？」疑問文と「～ノカ？」疑問文は、「ノダ」の有無によって疑問文の性質が変わってくる¹⁾。

- (1) a. 田中さんは中国に行きましたか？
b. 田中さんは中国に行ったんですか？

普通の読みだと、例文(1) aは、「中国に行ったかどうか」を問う疑問文として理解され、「ノダ」が使われた(1) bは、「どこかへ行った」ことはすでに知っていて、それが「中国かどうか」を問う疑問文として理解される。「ノダ」の有無は次のような例文における質問の適切さをも左右することがある。

- (2) (外出の支度をしている人に)
a. ??これから出かけますか？
b. これから出かけるんですか？

このような文脈では(2) aは聞き手が「外出の支度をしている」という状況を無視した疑問文になり、不自然な文になるが、このような不自然さは(2) bのように「ノダ」を使うことによって解消される。小金丸(1990)は(1) bのような「ノダ」は述語以外の要素「中国に」を疑問のスコープに入れるために使われるとしてこのタイプの「ノダ」をスコープの「ノダ」、(2) bのように「外出の支度をしている」状況と「出かける」を関連付けるために用いるタイプの「ノダ」をムードの「ノダ」と呼んで区別している。

さて、小金丸(1990)のこのような分類が妥当であるかどうかは追って言及することにする。本稿は日本語の「～カ？」疑問文と「～ノカ？」疑問文のような違いを中国語ではどのように区別しているのかを考察することが目的である。なお、肯定形の「ノダ」のみを考察の対象とし、否定形の「ノデハナイカ」や推量形の「ノダロウカ」などについては別途考察することにする。

2. 中国語の「是～的 (shi～de)」文

形式的には日本語の「ノダ」は先行する文を名詞化する機能を持つ準体助詞「の」に判定詞

「だ」が結びついたものであるとされる。

- (3) a. 田中さんは昨日中国に行った。→ b. 田中さんは昨日中国に行ったのだ。
名詞化

中国語にもこの「ノダ」文に類似する「是～的 (shi~de)」文があるが、「是～的 (shi~de)」も用言句を体言化する機能を持つ「的 (de)」と判断詞と呼ばれる「是 (shi)」が結びついて作られるとされる。

- (4) a. 田中 昨天 去了 中国。→ b. 田中是昨天去中国的。
田中 昨日 行く た 中国 名詞化

つまり、例文 (3) b、(4) bとも、それぞれ名詞述語文「田中さんは学生だ」、「田中是学生」に相当する文に変えているわけである。

さて、中国語の「是～的 (shi~de)」文には二種類のものがあるということが呂必松 (1982) や劉月華等 (1991) など論じられている。劉月華等 (1991) はそれぞれ「是～的 (shi~de)」(1)、「是～的 (shi~de)」(2)と呼んでいるが、ここでは劉月華等 (1991) の記述を参考にしながら中国語の「是～的 (shi~de)」文の特徴を見ていきたい。

まず、劉月華等 (1991) は「是～的 (shi~de)」(1)における述語は、「動作が過去においてすでに実現あるいは完了していることを表すが、述べようとする重点は動作自体にあるのではなく、動作の時間や場所、やり方、条件、目的、対象、仕手等、動作に関係する何らかの側面にある。」と述べられている。次がこのタイプの例である。

- (5) 我们是坐公共汽车去的。(私達はバスに乗って行ったのです。) (劉 (1991) 例)

- (6) 阿里是昨天打电话来的。(アリはきのう電話をかけてきたのです。) (劉 (1991) 例)

例文 (5) (6) でいうと、(5) では「私達は行った」ということはすでに知っていることであって、伝えたいことは「バスに乗って」行ったというその手段にある。また、(6) では「アリから電話がかかってきた」ことはすでに知っていることで、その出来事が起こった時間が「昨日」であるということを伝えている。このような特徴は単に出来事の発生又は完了を表す「了 (le)」と比較してみると分かりやすい。

- (5') 甲：你们是怎么去的？(あなたたちはどうやって行ったのですか?)

乙：我们是坐公共汽车去的。(私達はバスに乗って行ったのです。)

乙'：#我们坐公共汽车去了。(私達はバスに乗って行きました。)

- (6') 甲：阿里昨天打来电话了吗？(アリはきのう電話をかけてきましたか?)

乙：嗯，阿里昨天打来电话了。(はい。アリはきのう電話をかけてきました。)

乙'：#嗯，阿里是昨天打来电话的。(はい。アリはきのう電話をかけてきたのです。)

例文 (5') のように「行った」ことは知っていて「どうやって行ったか」を問う質問文に対する答えとしては「是～的 (shi~de)」文で答えなければならず、ただそのような事態が発生した又は

完了したことを表す「了 (le)」を使って答えることはできない。逆に (6') のように「アリからきのう電話がかかってくる」事態が発生したかどうかを問う質問文に対する答えとしては「了 (le)」を使って答えなければならず、「是～的 (shi~de)」文で答えることはできない。つまり、「是～的 (shi~de)」文ではその情報の焦点が出来事にあるのではなく、その出来事に関わる何らかの側面にあるということであるが、このタイプの「是～的 (shi~de)」文は例文 (5) や (6) がそうであるようにすでに実現済みの動作・行為の場合にのみ成立し、未来の動作・行為の場合は「的 (de)」をつけると非文になる。

(7) a. *太郎是明天去中国的。 (太郎は明日中国に行くのです。)

b. 太郎是明天去中国。

したがって、ここでは「是～的 (shi~de)」(1) に加え、「是 (shi) ~」をも合わせて扱うことにするが、「是 (shi) ~」と「是～的 (shi~de)」(1) がまったく同じ機能を持っているという意味ではない。例えば、「是～的 (shi~de)」(1) 文の「~」部分には否定や持続事態は入ることができないが、「是 (shi) ~」の場合はこのような制約がないといった違いがある。

(8) a. *是小王没有参加的。 (王さんが参加していないのです。)

b. 是小王没有参加。

(9) a. 是小王在那儿唱歌的。 (王さんがそこで歌を歌っているのです。)

b. 是小王在那儿唱歌。

次に、劉月華等 (1991) は「是～的 (shi~de)」(2) については、「主に話者の見方や見解、態度等を表すのに用いられる。述語は普通主語に対する解説や説明の働きをする。“是”と“的”はともに語気をあらわすが文によって表す語気も異なる。強調や断定、固い意志を表わすこともあれば、柔らかな語気や婉曲な語気を表すこともある」と述べられている。次がこのタイプの例文である。

(10) 无论谁反对, 我都是要干的。

(誰が反対しても僕はやるのだ。)

(『中国語版日本語文型辞典』)

(11) 经过三年的修整以后, 这里园林的面貌是会有变化的。

(三年間の修築の後、ここの庭園はきっと様変わりするであろう。)

(劉 (1991))

(12) 像他这样的人是不可能写出这么好的作品的。

(彼のような人間にこんないい作品が書けるはずがない。)

「是～的 (shi~de)」(1) 文は、すでに起こった事態を問題にする表現であり、「是 (shi) ~」文は、今現在起こっていること、または、これから起こることになっている (あるいは起こらないことになっている) 事態を問題にしている表現である。つまり、現実世界における事柄を問題にしているとまとめることができよう。これに対し、「是～的 (shi~de)」(2) 文は、現実世界における事柄を問題にしているものではない。劉月華等 (1991) でも、「是～的 (shi~de)」(1) と「是～

的 (shi~de)」(2) の見分け方として「是~的 (shi~de)」の「~」部分に可能補語や助動詞が伴うと必ず「是~的 (shi~de)」(2) であると述べているように、助動詞「要 (yao)」(例文 (10))、「会 (hui)」(例文 (11))、「不可能 (bukeng)」(例文 (12)) などの出現が目立つ。可能補語が伴うのは、

(13) 这么简单的题，他是解得了的。(こんなに簡単な問題は、彼は解けるはずだ。)

(14) 这么难的题，他是解不了的。(こんなに難しい問題は、彼は解けないはずだ。)

のようなものであるが、可能補語は話し手が当該事態に対して実現する可能性があるかどうかに関する認識または判断を表すもので、この意味で上記助動詞類が非現実世界において命題が真であると認識するということを表すのと共通しているといえよう。

「是~的 (shi~de)」(2) は、また、次のように反実仮想的なことを述べる時よく現れるのも非現実世界のことを問題にしていることを物語っている。

(15) 他答应你是因为喝多了酒，否则他是不会答应你的。

(彼が君に承諾したのはお酒を飲んだからだ。そうでなければ彼は君に承諾しなかったはずだ。)

例文 (10) ~ (14) も同じであるが、例文 (15) でいうと、日本語の「そうでなければ彼は君に承諾しなかった」に対応するのは「是~的 (shi~de)」を外した「否则他不会答应你」であり、「是~的 (shi~de)」には日本語の「はずだ」類に似たような性質が感じられる。つまり、可能補語や助動詞類が表す「非現実世界において命題が真である」という認識に対して確信しているということを表すのが、「是~的 (shi~de)」(2) の本質であるように思われる。そのためか例文 (16) のように個人的な評価を下し、しかもそのような価値観を信じているというような表現にも「是~的 (shi~de)」(2) はよく用いられる。

(16) 作为大学生干这种事是很可耻的。

(大学生としてこんなことをするのは非常に恥ずかしいのだ。)

次の例文のように聞き手が認識していない場合や、時間を超えた性質をあらわす場合も基本的に同じように捉えることができよう。

(17) 我是跟你说过的。别装不知道。(君に言ったはずだ。知らないふりをしないでくれ。)

(18) 是她的姑娘应该是很聪明的。(彼女の娘であれば賢いはずだ。)

したがって、「ノダ」と「是~的 (shi~de)」(2) は、次の例文 (19) のように未実現の事柄を表す、あるいは上記例文 (16) のように個人的な評価を下すという条件が整えば一応対応は可能であるように思われる。

(19) ……しかし、やがて金閣は、空襲の火に焼き亡ぼされるかもしれぬ。このまま行けば、金閣が灰になることは确实なのだ。 (金閣)

……可是，过不多久，金阁也许会毁于空袭的战火。照这样下去，金阁化为灰烬将是确实无疑的。 (http://www.bwsk.com/wg/sandyjf/)

しかし、対応が可能だからといって「是～的 (shi～de)」(2) も日本語の「ノダ」のように、先行発話や状況と関係付けて説明を行う形式ということではなく、あくまでも未実現の事柄について確信的判断を下すという認識的判断に関わる形式であると思う。このような特徴をもつ「是～的 (shi～de)」(2) は疑問文には生起しない。それは、命題内容が真であると主張しながら、一方では命題の真偽の判定を求めるというモダリティの矛盾が生ずるからであろうと思われる。したがって、本稿で「是～(的) (shi～de)」疑問文と呼ぶ場合の「是～的 (shi～de)」は「是～的 (shi～de)」(1) を指すものである。

3. 「ノカ」疑問文と「是～(的) (shi～de)」疑問文

「ノダ」についての先行研究として小金丸(1990)に言及したが、「ノダ」の機能については益岡(1989)、田野村(1990)(1993)、工藤(1996)に代表されるように「のだ」とスコープの拡張とは関係がないという立場がある。たとえば、工藤(1996)は「する－しない」の対立は、現実世界における〈事態の成立の有無〉をめぐってのものであるのに対し、「のだ－のではない」の対立は、〈説明的判断の適切性の有無〉をめぐってのもので、先行文(先行発話)あるいは発話状況(非言語的状況)に常に関係付けられているとしている。つまり、肯定の「ノダ」で言えば、先行文または発話状況[P]に対する説明として[Q]が適切であることを表すのが「ノダ」であるということである²。したがって、疑問文における「ノダ」の機能は言い換えれば、先行文または発話状況[P]に対する説明または解釈として[Q]が適切であるかどうかを問うものであると言えよう。

(20) 「あら、あなた! 早いよね!」智子が目を見張った。「どうしたの? 具合でも悪くて早退して来たの?」「いや、今日は特別に早く終わったんだ」(女社)

(21) 「小野先生、これから手術だそうですよ」「生きてるんですか」「助かりそうです」(古畑)
例文(20)は小金丸(1990)においてスコープの「ノダ」とされるもので、(21)はムードの「ノダ」とされるものであるが、確かに、いずれも先行発話や状況に対する解釈として適切かどうかを問うものとして理解される。しかしながら、小金丸(1990)のいうスコープを広げるために「ノダ」が使われるという見方には疑問がないわけではないが、この二つのタイプを分けること自体無意味なことではないと思われる。つまり、同じく先行発話や発話状況と関連付けているといってもその関連付け方に違いがあるのは認めていいたろう。

(20') P [早退して来た] → Q [具合でも悪くて早退して来た] ノカ?

(21') P [これから手術だ] → Q [生きています] ノカ?

つまり、(20)の場合は単一命題内の構成要素が問題になっているのに対し、(21)の場合は二つの命題間の関連付けが問題になっている。したがって、以下前者の〈命題内関連付け〉と後者の〈命

題間関連付け)に分けて議論を進めていきたい。

3.1. 命題内関連付け

ここで命題内関連付けと呼んでいるものはほぼ、小金丸(1990)のスコープの「ノダ」に対応するもので、〈誰〉が〈いつ〉〈どこ〉で〈何〉を〈なぜ〉といったある命題の構成要素を問題にするものであるが、述語が表す事態の存在は既知情報として知っていてそれに関わる仕手、目的、状況、時間、対象や様子、程度などを特定するために用いられる。

(22) 天 「(キョトンと) 何これ」

雨音 「この前、青山のバーで貸していただいたんです」

天 「(思い出さず) ……俺がキミに貸したの?」

雨音 「……ええ」

(WI)

(23) 吉田 「わざわざ“ありがとう”を言いに来たんですか?」

雨音 「……はい」 吉田、雨音に向き直り、真顔で——

(WI)

(24) 雄介が戻ってくると——

女1 「野口さん、彼女に電話してたんですか?」

有本 「(ゲソゲソと) でしょ、でしょ?」

雄介 「……ええ、まあ」

(逢い)

(25) 加藤文太郎は雑誌“山岳”に手をのばした。「この雑誌は古くからあるんですか?」「明治三十九年からずっとあるんだ」 加藤はうなずきながら、その一冊を手にとって開いた。(孤高)

例文(22)では「貸す」、(23)では「来る」、(24)では「電話する」、(25)では「ある」というふうに、「ノカ」疑問文の述語は言語的にしろ、非言語的にしろ先行発話または発話状態で既に現われているかまたは想定可能である。中国語の「是～(的)(shi~de)」疑問文も基本的にこのような用法しか持っていない。

(26) 她向我招手，还喊着：“喂喂。”我看看自己前后左右，没人，便大声问：“是叫我吗?”她拼命地点头。

(手心)

(彼女は私に手を振りながら「おい、おい」と叫んだ。私は周りを見渡しても誰一人いなかったので大きな声で訊いた。「私を呼んでいるの?」彼女はしきりに頷いた。)

(27) “林枫先生，你怎么到海州来了?是来演出的吗?”

(我有)

(林枫先生、海州にお見えになるなんて珍しいですね。公演にいらっしゃったんですか?)

(28) 贵：大少爷，您是明天起身么?

萍：嗯。

(雷雨)

(贵：大旦那様、明日出発されるんですか? 萍：うん。)

(29) 你是在电车里看到这对男女的吗?

(あなたは電車の中でその男女を見たのですか?)

このように、中国語の「是～(的)(shi~de)」疑問文は例文(26)では動作の対象、(27)では動作の目的、(28)では動作の時間、(29)では動作の場所などのように命題内においてその命題を構成する要素を問題にする疑問文として広く機能する。

3.2. 命題間関連付け

〈命題間関連付け〉は先にみてきた〈命題内関連付け〉と違って、先行発話や発話状況からなる命題に対してそれと関連する別の命題を提出してその適切さを問題にするものである。なお、中国語の「是～(的)(shi~de)」疑問文は〈命題間関連付け〉の機能はもっていない。

(30) (皮膚が黒く焼けているのを見て)

a. # 是去大海的吗?

b. # 是去大海了吗?

cf: 去大海了?(海に行ったんですか?)

(31) (顔が赤くなって帰ってきた人に)

a. # 是喝酒的吗?

b. # 是喝酒了吗?

cf: 喝酒了?(酒を飲んだんですか?)

このように、中国語では日本語の「海に行ったんですか?」「酒を飲んだんですか?」と類似した機能を「是～(的)(shi~de)」疑問文には持ち合わせておらず、このような機能を中国語では上昇調疑問文によって表している場合が多いが、詳しくは次節に譲って、ここでは日本語の「ノカ」のみをしてみることにする。

3.2.1. 先行発話や発話状況との関連付けがないもの

この種の「ノカ」疑問文は特に先行発話や発話状況と関連付けているとは考えにくいものであるが、次のようなものである。

(32) 「何に使う金なんだ」突然そう訊かれた私は、さても柏木らしからぬ質問だと思った。

「どこかへ、ぶらっと旅に出たいんだ」「帰って来るのか」「多分……」 (金閣)

(33) 「お師匠さんが港へ行ってて、肺炎になったんですの。私がちょうど実家にいたところへ電報が来て、看病したんですわ。」「よくなったの?」「いいえ。」 (雪国)

例文(32)では先行発話において「旅に出たい」と言っているだけで、厳密には「帰って来る」と

解釈するまたは理解するだけの情報を与えられているわけではない。例文 (33) でも、「看病した」と言っただけでそこから「よくなった」かどうかを直接知り得ることはできないと思われる。また、次の例文のようにある組織の慣例的なことや普通考えられる事態に加え、話し手が危惧・心配を持っていることによって望む事態を「ノカ」疑問文を用いて発せられるような場合もある。

(34) 編輯長は一通り、吾一の経歴を聞いたあとで、しずかにいった。「君、あの速記は、伯爵の許可を受けているのですか。」「いいえ、そこまでは。——何しろ売れるか売れないかわからないものですから……」「そうだろうと思った。」実はあの原稿はいま伯爵のところにあげて目を通していただいている。よく取れているから、むろん許してもらえと思っています。そうすると、早速来月号に載せますよ。」 (路傍)

(35) 「安心したよ。——例の、女が殺されたマンションを知っているね?」「ええ」「あそこへ、今夜十二時頃に来てくれないか。私は少し早く行って待っている」「分かりました。でも、鍵は持っているんですか?」「そうか! うっかりしていた」 (女社)

例文 (34) でも先行文脈や発話状況からは「伯爵の許可を受けている」ことを導くことはできず、直接的な関連性は極めて希薄である。にもかかわらず「伯爵の許可を受けている」を「ノカ」疑問文で提出しているのは、「原稿は伯爵に許可を受ける」のが慣例になっていることに加え、後続する文で「許可を受けていない」旨の答えに対し「そうだろうと思った。」という発話からも分かるように、「伯爵の許可を受けていないのでは」という危惧なり心配なりを有するとともに、一方では「伯爵の許可を受けてほしい」という気持ちがあるからではないかと思われる。例文 (35) も「そのマンションで待つ」というからには普通は鍵を持っていないなければならないということに加え、「でも」が使われていることから分かるように、話し手は聞き手が鍵を持っていないのではないかと考えており、(34) と同じような解釈が可能である。

3.2.2. 先行発話や発話状況と関連付けるもの

上で挙げたタイプと違ってこのタイプは先行発話または発話状況と密接な関連性をもっており、先行発話や発話状況を受けて、それが意味すると思われることを「ノカ」疑問文で提出して問うものである。

(36) 天 「みどり、俺、帰るから」と、財布を出そうとする。

みどり 「援助してくれるんですか?」

めぐみ 「あ、結構です。今日は彼女の奢りですから」 (WI)

(37) 吉 田 「これこれ、この生春巻。あっちで食べたのと同じ味なんですよ」

雨 音 「ベトナム、行かれたことあるんですか?」

吉 田 「雨音さんは?」

雨 音 「ありません」

吉 田 「僕もありません (と、笑う)」

(WI)

例文 (36) では「財布を出そうとする」様子から、それは「援助してくれる」ということかを訊いており、(37) では「あっちで食べたのと同じ味だ」という発話から、ということは「行ったことがある」ということなのかを訊いている。

また、厳密には (36) (37) のようなものと区別するのは難しいが先行発話や発話状況によって表される事態を引き起こした理由や根拠を尋ねるようなものもある。

(38) 「あら、永野さんはどうしました？ 遊びに行かないんですか」信夫はだまって、こっくりとうなずいた。先生はおどろいて足早に近づいてきた。「おなかでも痛いのですか」先生のいい匂いがした。信夫は首を横にふった。
(塩狩)

(39) 「つまり、彼の死は自発的なものではなく、他から強制されたのではないか、という疑いです」鳥飼は、三原の顔をじっと見た。「何かその形跡があるのですか？」「はっきりしたものはありません」三原は答えた。
(点と)

例文 (38) では「遊びに行かない」理由として「おなか痛い」が適切であるかどうかを問うており、(39) では「彼の死は自発的なものではなく、他から強制されたのではないか」と判断される根拠として「何かその形跡がある」のかを訊いている。

4. 「ノカ」疑問文と中国語の上昇調疑問文

〈命題間関連付け〉の「ノカ」疑問文は、小説の対訳などに当たってみると多くの場合中国語の上昇調疑問文との対応が目立つ³。

(40) 「だけど、五月二十三日って、よく覚えてるね。」「日記を見れば、直ぐ分るわ。」

「日記？ 日記をつけてるの？」「ええ」

(雪国)

“你怎能记得那么清楚是五月二十三日呢？” “只要翻翻日记就知道了。”

“日记？ 你记日记？” “嗯”

(林少華訳『雪国』)

(41) “上菜上菜，服务员，上菜。”宝康叫穿着红制服的服务员，“你怎么着急了？下午还有事？”

“晚上演出，下午得早点去装台。”

(頑主)

「ああ、そうね料理料理。ウェーター！」宝康はあせってウェーターを呼びつけ、それから林蓓に、「そんな急いで、午後何か用があるの？」「夜に公演があるの」

(石川 郁訳『北京無頼』)

そこで、〈命題間関連付け〉の「ノカ」疑問文と中国語の上昇調疑問文にどのような異同点があるかを考察していきたいが、その前に中国語の上昇調疑問文の特徴を「吗 (ma)」疑問文、正反疑問文と比較しながら確認しておく。

4.1. 中国語の上昇調疑問文の特徴

話し手が、聞き手がサッカーの試合を見るのが好きかどうかまったく知らない状況で、次のような質問を行ったとしよう。

- (42) a. 你爱看足球赛吗？（あなたはサッカーの試合を見るのが好きか？）
 b. 你爱不爱看足球赛？（あなたはサッカーの試合を見るのが好きか好きではないか？）
 c. # 你爱看足球赛？（あなたはサッカーの試合を見るのが好き？）

例文 (42) c は文脈に合わず不自然な文になるが、中国語の上昇調疑問文は先行文脈や発話場面あるいは既知情報に対する依存性が強く、何の前提もなしにいきなり発することはできない。例文 (42) c の発話が自然な文になるためには、例えば聞き手がサッカー試合の中継を見ているとか、あるいは、楽しそうにサッカーの話をしているなどの状況が考えられる。中国語の上昇調疑問文はよく次のような場面において使われるが、同じ意味で「吗 (ma)」疑問文や正反疑問文に置き換えることはできない。

(43) [冲由饭厅上。(冲がダイニングから上がる)]

周 冲：（没想到父亲在这儿）爸！（（お父さんがここにいるとは思わなかった）お父さん！）

周朴园：a（露喜色）你——你没有睡？（（嬉しそうに）寝てないのか？）

b # 你——你没有睡吗？

c # 你——你睡没睡？

周 冲：嗯。（うん。） (雷雨)

(44) (毎朝ジョギングが習慣になっている人が、ジョギングの支度をしているのを見て)

a. 外面下这么大的雪，你还去跑步？

（こんな大雪が降っているのに、ジョギングに行くのですか？）

b. # 外面下这么大的雪，你还去跑步吗？

c. # 外面下这么大的雪，你还去不去跑步？

このような違いは、次の例文のように、「听说（聞く話によると）」によって表わされる伝聞情報の正否を確認する場合や相手の発話を受けてそこからの推論であることが明示された場合、一層、はっきり現れる。

(45) a. 听说你爱看足球赛？（（聞く話によると）君、サッカーの試合を見るのが好きだった？）

b. *听说你爱看足球赛吗？

c. *听说你爱不爱看足球赛？

(46) a. 这么说你见过这个人？（と言うと、君はこの人に会ったことがあるということ？）

b. *这么说你见过这个人吗？

c. *这么说你见没见过这个人？

このように、中国語の上昇調疑問文は先行発話や発話状況または伝聞によって与えられた情報あるいはそれに対する理解が正しいかどうかを問うという機能を持っている。袁 (1993) でも、次の (47) のような例文における応答の仕方の違いに注目し、「对 (dui)」で答えられる上昇調疑問文は、質問内容に対する話し手の推測が潜んでいると指摘している。このような推測は先行文脈や発話状況を根拠に得られるものである。

- (47) a 甲：姥姥起床了？／お婆さん起きた？ b 甲： 姥姥起床了吗？
乙：对， / そうです。 乙：*对

(袁 (1993) 例)

4.2. 「ノカ」疑問文と中国語の上昇調疑問文の異同点

中国語の上昇調疑問文は上で見てきた「吗 (ma)」疑問文や正反疑問文との比較からも分かるように日本語の〈命題間関連付け〉の「ノカ」疑問文とかなり近い機能を果たしている。この両疑問文は応答の仕方にも類似性が見られる。袁 (1993) でも (47) のような例文における応答の仕方の違いを指摘しているように中国語の上昇調疑問文は「正しい」「その通りだ」の意味を持つ「对 (dui)」で答えられるが、反語を表す場合や何らかの形で述語以外の要素が疑問の焦点になっているものを除けば述語が疑問の対象になっている通常の「吗 (ma)」疑問文は「对 (dui)」で答えることはできない。日本語の場合も、大島 (1991) で指摘されているように、

- (48) a. きとう太郎に会いましたか？ -?? そうです。

b. きとう太郎に会ったのですか？ - そうです。 (大島 (1991) 例)

「ノカ」疑問文は問題なく「そうです」で答えることができるが、述語が表す事態の有無を表す通常の「カ」疑問文は「そうです」で答えることができないという傾向がみられる。

さて、中国語の上昇調疑問文も日本語の「ノカ」疑問文と同じように、先行文脈や発話状況と関連付けて質問する疑問文としてかなり広く機能する。

- (49) 丁 红：我看你桌上有本《圣经》。你去教堂了？

冯一民：怎么了？ (喜乐)

(丁红：机の上に聖書置いてあるけど、教会に行ってきたの？ 冯一民：それがどうした?)

- (50) 牛月清说：“娘，你搅醋瓮了？” 酿醋是每日都要用一根净棍儿搅的。老太太说：“不用搅了，熟了。” 赵京五说：“你们家自己做醋？” (废都)

(「母さん、お酢はかき回した？」 醸造酢は毎日きれいな棒でかき回さなくてはならないのである。「いいんだよ、熟してきたから」と義母が言った。「お宅では自分で酢を作るんですか？」)

(吉田富夫訳『廢都』)

また、日本語の「ノカ」疑問文と中国語の上昇調疑問文は新しい情報を与えられてその情報の受容

を表す用法も共有する⁴。

(51) 甲：我这几天到东京去玩儿去了。

私はこの間、東京に遊びに行ってきました。

乙：是吗？到东京去玩儿去了？怪不得这些天都见不到你。

そうですか、東京に行ってきたんですか。このごろ会わないなあと思っていました。

(52) (ずっと捜していた人を発見して)

你在这儿？找了半天了。

ここにいたんですか。ずっと捜していましたよ。

このように、〈命題間関連付け〉の「ノカ」疑問文と中国語の上昇調疑問文は基本的に同じタイプの疑問文であると言えるのではないと思われる。しかし、日本語の「ノカ」疑問文は先行発話や発話状況と関連付ける場合も、また、特に先行発話や発話状況と関連付けているとは考えにくい場合でも使用できたが、中国語の上昇調疑問文は先行発話や発話状況と関連付けが明確でない場合は使いにくいように思われる。

(53) 「何に使う金なんだ」突然そう訊かれた私は、さても柏木らしからぬ質問だと思った。

「どこかへ、ぶらっと旅に出たいんだ」「帰って来るのか」「多分……」(再掲)

(54) 「お師匠さんが港へ行行って、肺炎になったんですの。私がちょうど実家にいたところへ電報が来て、看病したんですわ。」「よくなったの？」「いいえ。」(再掲)

例文 (53) (54) は先行発話や発話状況との関連付けが考えにくい例として3.2.1.で挙げたものであるが、上昇調疑問文に訳すことも不可能ではないように思われるが、実際の訳本では「吗 (ma)」疑問文に訳されており、直感的にも「吗 (ma)」疑問文で尋ねるほうがより普通であるように感じられる。

(53') “你要钱干什么？” 柏木冷不防地问了我一句。我觉得这种问题不像是由昔日的柏木提出来的。

“我想旅行，出去随便走走。”“还回来吗？”“多半……” (<http://www.bwsk.com/wg/sandyjf/>)

(54') “师傅到港市以后得了肺炎。正好我在老家，接到电报，我就去护理了。”“好了吗？”“没好。”

(林少華訳『雪国』)

5. おわりに

以上、日本語の「ノカ」疑問文に対応すると思われる中国語の疑問文を考察したが、形式の構成上類似する中国語の「是～(的) (shi～de)」文は単一命題内の構成要素を問題にする場合にのみ機能し、命題間を関連付ける機能は持っていない。そして、中国語では命題間を関連付ける機能は上昇調疑問文が担っているが、先行文脈や発話状況との関連性が強いほど使用しやすく、また先行文脈や発話状況との関連性が弱いほど使いにくくなる傾向が見られる。

注

- 1) 以下、出典を明記していない例文は筆者の作例または訳文である。なお、非文には[*]、不自然な文には[?]?、文脈に合わないものには[#]を付す。
- 2) 益岡(1989)は、広義の真偽判断が関与する文に関して、事態の存在・非存在を問題にする「存在判断型」と存在が前提された事態の叙述の仕方を問題にする「叙述様式判断型」を区別している。また、田野村氏は田野村(1993)で「[のだ]の機能にとって重要なことは、ある事柄を受けてその背後にはどのような事情があるかということの問題とし、表現するものだという一点に集約される。(p37)」と述べている。
- 3) ここでいう上昇調疑問文は、終助詞の「啊(a)」が付くものも含む。ただし、同じく上昇調で疑問を表わすものに「回声問」(問い返し疑問)と呼ばれるものがあるが、先行発話の繰り返し(全部、又は一部)であるという点、文意を変えることなく終助詞「啊(a)」を付けることができないという点で違いが見られ、ここで扱う上昇調疑問文から除外する。
- 4) 「吗(ma)」疑問文にはこのような機能がない。ただし、例外的に応答表現である「是吗(shima)」の場合はこのような機能を果たすことができる。

用例出典

(金閣) 三島由紀夫『金閣寺』; (女社) 赤川次郎『女社長に乾杯』; (雪国) 川端康成『雪国』; (孤高) 新田次郎『孤高の人』; (路傍) 山本有三『路傍の石』; (塩狩) 三浦綾子『塩狩峠』; (点と) 松本清張『点と線』; (古畑) 三谷幸喜『古畑任三郎』; (WI) 『WITH LOVE』(逢い)『逢いたい時にあなたはこない』伴一彦シナリオ <http://www.plala.or.jp/ban/script.html>; (手心)「手心手背」『收获』1996.6; (我有) 古榕『我有情人』; (雷雨) 曹禺『雷雨』; (顽主) 王朔『顽主』; (喜乐) 李红雨『喜乐的心』; (废都) 贾平凹『废都』

参考文献

- 井上 優 (1991)「受信情報の疑問文」『言語理論と日本語教育の相互活性化』津田塾大学
井上 優 (2002)「“是吗?”に関する覚え書」『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房
袁 毓林 (1993)「正反问句及相关的类型学参项」『中国语文』2
大河内康憲 (1975)「[是]のムード特性」『大阪外国語大学学报』33言語・文学編
大島資生 (1991)「応答句「そうです」の機能について」『言語理論と日本語教育の相互活性化』
工藤真由美 (1996)「「～ノデハナイ」の意味と機能」『横浜国立大学人文紀要 第二類 語学・文学』43

- グループ・ジャマシイ (1998)『日本語文型辞典』くろしお出版；同徐一平等訳 (2001)『日本語文型辞典 中国語訳 (簡体字版)』くろしお出版
- 小金丸春美 (1990)「ムードの「のだ」とスコープの「のだ」」『日本語学』9-3
- 徐杰・李英哲 (1993)「焦点和两个非线性语法范畴：“否定”“疑问”」『中国语文』2
- 杉村博文 (1982)「「是…的」-中国語の「のだ」の文-」『講座に本語学』12 明治書院
- 田野村忠温 (1990)『現代日本語の文法 I 「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 田野村忠温 (1993)「「のだ」の機能」『日本語学』12-10
- 野田春美 (2002)「第7章 説明のモダリティ」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 著『モダリティ』くろしお出版
- 益岡隆志 (1989)「モダリティの構造と疑問・否定のスコープ」『日本語のモダリティ』
- 森山卓郎 (1992)「疑問型情報受容文をめぐって」『語文』59 大阪大学国語国文学会
- 刘月华等 (1983)『实用现代汉语语法』(外语教学与研究出版社) 日本語版『現代中国語文法総覧 (上・下)』(1991) 相原 茂監訳 くろしお出版
- 刘 月华 (1988)「语调是非问句」『语言教学与研究』2
- 刘 月华 (1990)『句子的用途』人民教育出版社 日本語版『中国語の表現と機能』(1992) 平松圭子・高橋弥守彦・永吉昭一郎共訳 好文出版
- 吕 淑湘 (1980)『现代汉语八百词』商务印书馆
- 吕 必松 (1982)「关于“是……的”结构的几个问题」『中国语文』4